

薬事総合研究開発センター研究評価実施要領細則

(目的)

第1条 この細則は、薬事総合研究開発センター研究評価実施要領（以下「要領」という。）第9条の規定に基づき、薬事総合研究開発センターにおける研究課題評価の実施について必要な事項を定める。

(内部評価委員会に諮る調査研究)

第2条 要領第3条第1項に規定する内部評価委員会に諮る調査研究は、研究員が行う全ての研究課題とする。

(外部評価委員会に諮る調査研究)

第3条 要領第3条第2項に規定する外部評価委員会に諮る調査研究は、次の各号の何れかに該当するものの中から、所長が決定する。

- (1) 県予算を財源として次年度から新規事業として実施を計画している調査研究
- (2) 産学官が連携（国、地方自治体、独立行政法人などの公的機関から研究費を受け入れするものを含む。）して取り組む又は取り組んだ調査研究
- (3) 多くの研究資源を投入する又は投入した調査研究
- (4) その他所長が特に外部評価の必要性を認めた調査研究

(試験研究課題調書)

第4条 要領第7条に規定する試験研究課題調書の様式は、次のとおりとする。

- (1) 事前評価 様式1
- (2) 中間評価 様式2
- (3) 事後評価 様式3
- (4) 追跡評価 様式4

2 試験研究課題調書等の提出書類は、評価委員会開催の2週間前までに評価委員会の委員に配布するものとする。

(評価票)

第5条 要領第7条に基づき研究課題評価を実施した評価委員会の委員は、評価結果を評価の区分毎に次の様式の評価票に記載し、事務局に提出するものとする。

- (1) 事前評価 様式5
- (2) 中間評価 様式6
- (3) 事後評価 様式7
- (4) 追跡評価 様式8

(その他)

第6条 この要領細則に定めるもののほか、評価の実施にあたって必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年1月29日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和5年4月1日から施行する。

事前評価調書

1. 所属・氏名				
2. 研究課題				
3. 研究期間	令和〇〇年度 ～ 〇〇年度			
4. 所要見込額	初年度	次年度	次々年度以降	全体所要額
	〇〇〇千円	〇〇〇千円	〇〇〇千円	〇〇〇千円
5. 研究費の財源	例：県費 〇〇事業（国費 〇/〇）			
6. 共同研究機関				
7. 研究の背景、目的				
8. 研究の必要性				
9. 研究の新規性、独創性				
10. 当該研究計画に関連して現在まで行った研究				
11. 有用性（期待される効果）				
12. 研究計画、方法	（研究の内容、年次計画、目標などを具体的に記載） 〇〇			

中間評価調書

1. 所属・氏名				
2. 研究課題				
3. 研究期間	平成〇〇年度 ～ 令和〇〇年度			
4. 所要見込額	前年度以前	今年度	次年度以降	全体所要額
	〇〇〇千円	〇〇〇千円	〇〇〇千円	〇〇〇千円
5. 研究費の財源	例：県費 〇〇事業（国費 〇/〇）			
6. 共同研究機関				
7. 研究の背景、目的				
8. 研究の概要	（研究内容の要旨、目標及び有用性（期待される効果）を記載）			
9. 計画の進捗状況	（当初作成した年次計画と実績（成果）とが比較できるように記載（別添でも可））			
10. 次年度以降の研究計画、方法	（次年度以降の研究の内容、年次計画、目標達成の可能性などを具体的に記載） 〇〇			

事後評価調書

1. 所属・氏名			
2. 研究課題			
3. 研究期間	平成〇〇年度 ~ 令和〇〇年度	全体所要額	〇, 〇〇〇千 円
4. 研究費の財源	例：県費 〇〇事業（国費 〇/〇）		
5. 共同研究機関			
6. 研究の背景、 目的			
7. 研究の概要	（研究内容の要旨、目標及び有用性（期待される効果）を記載） 〇〇		
8. 研究結果、成果			
9. 目標の達成度			
10. 活用の可能性			
11. その他	（当該研究結果を踏まえ、今年度から発展的な研究に着手している場合、その概要を記載） 〇〇		

追 跡 評 価 調 書

1. 所属・氏名			
2. 研究課題			
3. 研究期間	平成〇〇年度 ~ 〇〇年度	全体所要額	〇, 〇〇〇千円
4. 研究費の財源	例：県費 〇〇事業（国費 〇/〇）		
5. 共同研究機関			
6. 研究の背景、 目的			
7. 研究の概要	（研究内容の要旨、目標及び有用性（期待される効果）を記載） 〇〇		
8. 研究結果、成果			
9. 成果の公表状況			
10. 成果の活用状況			

事前評価 評価票(〇〇年度)

評価委員氏名 _____

課題番号		課題名	
個別評価項目		評 点	意 見
必要性		a b c d e	
新規性・創造性		a b c d e	
目標達成の可能性		a b c d e	
研究内容（計画・方法）の妥当性		a b c d e	
有用性 （期待される効果）		a b c d e	
総合評価		5 4 3 2 1	
委員の平均点で 下記により評価			

<評価項目の評点>

- 個別評価項目 a 極めて高い（極めて適切である） b 高い（適切である）
 c 概ね認められる（概ね適切である） d 低い（改善の余地がある）
 e 極めて低い（全面的な見直しを要する）

- 総合評価 A 計画どおり実施可（平均点 \geq 4） B 計画を一部修正して実施可（4 $>$ 平均点 \geq 3）
 C 計画を改訂して実施可（3 $>$ 平均点 \geq 2） D 実施不可（2 $>$ 平均点）

中間評価 評価票(〇〇年度)

評価委員氏名

課題番号		課題名	
個別評価項目		評 点	意 見
計画の進捗状況		a b c d e	
目標達成の可能性		a b c d e	
有用性 (期待される効果)		a b c d e	
総合評価		5 4 3 2 1	
委員の平均点で 下記により評価			

<評価項目の評点>

個別評価項目 a 極めて高い(極めて適切である) b 高い(適切である)
c 概ね認められる(概ね適切である) d 低い(改善の余地がある)
e 極めて低い(全面的な見直しを要する)

総合評価 A 計画どおり継続可(平均点 \geq 4) B 計画を一部修正して継続可(4 $>$ 平均点 \geq 3)
C 計画を改訂して継続可(3 $>$ 平均点 \geq 2) D 継続不可(2 $>$ 平均点)

事後評価 評価票(〇〇年度)

評価委員氏名

課題番号		課題名	
個別評価項目		評点	意見
目標の達成度		a b c d e	
成果の有用性		a b c d e	
活用の可能性		a b c d e	
総合評価		5 4 3 2 1	
委員の平均点で 下記により評価			

<評価項目の評点>

個別評価項目 a 極めて高い b 高い c ある d 低い e 極めて低い

- 総合評価
- A 計画を上回る研究成果が得られている (平均点 \geq 4)
 - B 計画どおりの研究成果が得られている (4 $>$ 平均点 \geq 3)
 - C 概ね計画どおりの研究成果が得られている (3 $>$ 平均点 \geq 2)
 - D 計画した研究成果が得られていない (2 $>$ 平均点)

追跡評価 評価票(〇〇年度)

評価委員氏名

課題番号		課題名	
個別評価項目		評 点	意 見
成果の公表状況		a b c d e	
成果の活用状況		a b c d e	
総合評価 委員の平均点で 下記により評価		5 4 3 2 1	

<評価項目の評点>

個別評価項目 a 極めて高い(極めて適切である) b 高い(適切である) c ある(概ね適切である)
d 低い(改善の余地がある) e 極めて低い(全面的な見直しを要する)

総合評価 A 研究成果が予想以上に活用されている(平均点 \geq 4)
B 研究成果が十分活用されている(4>平均点 \geq 3)
C 研究成果が活用されている(3>平均点 \geq 2)
D 研究成果が活用されていない(2>平均点)